共済部創部60周年記念企画

慶応義塾縁の地ツアー

（　散策のしおり　）

平成25年6月15日（土）

慶應義塾大学　福利厚生機関　共済部

目次

はじめに … 1

行程 … 2

持ち物 … 2

年表 … 3

1．集合場所～慶応義塾発祥の地（中津藩中屋敷蘭学塾） … 4

慶應義塾の起源（慶応義塾公式サイト「慶應義塾豆百科」より） … 5

2．慶応義塾発祥の地～丸武 … 6

軍艦操練所（現東京都中央卸売市場（築地市場））… 7

福沢先生と勝海舟 … 7

3．丸武～慶応義塾命名の地（久留米藩有馬家中屋敷跡地） … 8

ウェーランド経済書講述記念日
（慶応義塾公式サイト「慶應義塾豆百科」より）… 9

上野の戦争（『福翁自伝』より） … 9

4．慶応義塾命名の地～薬学部・芝共立キャンパス …10

慶應義塾大学薬学部（慶応義塾公式サイトより） …11

芝共立キャンパス（慶応義塾公式サイトより） …11

5．薬学部キャンパス
～勝海舟・西郷隆盛江戸開城会見の地
（薩摩藩蔵屋敷跡地、現三菱自動車工業㈱本社前） …12

勝・西郷会談（「Wikipedia」より） …13

江戸薩摩藩邸焼き討ち事件（「Wikipedia」より（一部））…13

6．勝海舟・西郷隆盛江戸開城会見の地～三田キャンパス
（島原藩中屋敷跡地）…14

三田移転（慶応義塾公式サイト「慶應義塾豆百科」より） …15

おわりに …16

はじめに

本日は共済部創部60周年記念企画・「縁（ゆかり）の地ツアー」にご参加いただき、ありがとうございます。

昭和27年（1952年）に経済学部、法学部法律学科、同政治学科の委員各1名ずつ計3名で創部された共済部は、戦後の混乱から立ち直り高度成長へ向かう時代のうねりの中、義塾で学ぶために全国各地から集まった塾生に、下宿を紹介しアルバイトを斡旋することを主な目的として活動を開始いたしました。以後、高度成長期から石油ショック、バブル期とその崩壊期、世の移り変わりの影響を受けつつも粛々と業務を継続し、昨年創部60周年を迎えました。

そして本年、創部60周年を記念する総会及び事業を行う運びとなりました。

記念のイベントとして何が相応しいかを考えたとき、思い浮かんだのが慶応義塾創立150周年の際、慶応義塾ワンダーフォーゲル部が行った大分・中津から東京・三田までの徒歩踏破行です。

さすがに中津から歩くことは難しいので、福沢先生が藩命により蘭学塾を開塾した築地・鉄砲洲、鉄砲洲の外国人居留地指定に伴う立ち退き命令と塾生の減少に対応して移転、慶応義塾と名付けかつ上野彰義隊の戦いの日も講義を休まなかったという逸話も印象深い芝・新銭座、そして現在の三田の地を訪ねる「プチ踏破行」の実施を思い立った次第です。

歴史を繙きながら、歩調を合わせて仲良く慶応義塾の縁（ゆかり）の地を歩けば、今までにも増して先輩と後輩そして同期同士の紐帯が強まり、共済部の良き伝統を実感するとともに、慶応義塾そのものの歴史にも触れることができるものと考えます。

約2時間、慶応義塾発祥の地から三田キャンパスまで歩けば、きっと喉も程良く渇くことでしょう。仲間と共に共友会総会で声高らかに乾杯、美味しいお酒を飲もうではありませんか！

※お願い！！
この「しおり」の記載内容には、誤りが含まれている可能性があります。誤りにお気付きの際は、ご容赦賜りますとともに後学のためご一報賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

三田演説館

図書館旧館

行程

11:50	集合（東京メトロ有楽町線「新富町」駅、明石町方面改札）	
12:00	出発（同6番出口）	
	↓	
12:07	**慶応義塾発祥の地（中津藩中屋敷跡地）**	……①(P4)
	↓	
12:30	「丸武」	……※1(P6)
	↓	
	↓　　＜適宜トイレ休憩＞	
	↓	
	東京都中央卸売市場築地市場	
	↓	
	浜離宮恩賜庭園	
	↓	
	イタリア街	
	↓	
13:05	**慶応義塾命名の地（久留米藩有馬家中屋敷跡地）**	……②(P8)
	↓	
13:15	**薬学部・芝共立キャンパス**	……③(P10)
	↓	
	↓　　＜適宜トイレ休憩＞	
	↓	
	増上寺前	
	↓	
	芝公園前	
	↓	
	戸板女子短大	
	↓	
13:50	江戸開城会見の地（薩摩藩蔵屋敷跡地）	……④(P12)
	↓	
	慶應仲通り商店街	
	↓	
14:00	**三田キャンパス（島原藩中屋敷跡地）**	……⑤(P14)

持ち物（○は配付予定）

○しおり
○お茶、飴
・帽子
・タオル（汗ふき用）
・ハンカチ、ティッシュ
・常用薬
・携帯電話
・雨具（小雨時、ビニールカッパ）

※時節柄、暑さ対策、雨対策、紫外線対策は各自でお願いいたします。
※歩き易い服装、靴でご参加ください。
※ツアー後の総会出席に備え、必要に応じて、汗ふきや着替え等をご用意ください。

緊急時の対応　＜お願い＞
・基本的に少雨決行の予定ですが、判断に迷う天候の場合、当日午前9時に事務局が実施・不実施を判断し、参加者各位にご連絡いたします。
・当日の緊急連絡のため、予め確実に連絡可能な連絡先（電話番号・メールアドレス）をご連絡くださいますようお願い申し上げます。
・体調に異変が生じた場合など、お気付きの点は何でも至急引率者又は緊急連絡先にお知らせください（裏表紙参照）。

年表

1857年	安政4年		22歳	・適塾塾頭となる。	
1858年	安政5年	9月	23歳	・安政の大獄始まる。	
		10月中旬		・藩命により江戸出府、築地・鉄砲洲中津藩中屋敷に蘭学塾を開く。前任は松木弘安（薩摩藩出身、蘭学者）。	①
				・鉄砲洲在住の蘭学の大家・桂川甫周宅に入り浸る。甫周の二女・みねに懐かれる。	
1859年	安政6年	2月	24歳	・五カ国（米・英・蘭・露・仏）修好通商条約（1858年締結）の規定により長崎、神奈川、箱館を開港。	
				・徒歩で横浜遊学、英学への転向を決意。	
1860年	安政7年/万延元年	1月	25歳	・品川、横浜を経由して、浦賀より咸臨丸で渡米。（日米修好通商条約批准書交換のため。）（桂川甫周の亡き妻が咸臨丸渡航の責任者・軍艦奉行木村摂津守喜毅の姉であった縁で、甫周が木村喜毅に紹介状を書いてくれ従僕として乗船が認められた。）（勝海舟が航行の指揮を執ったが、船酔いのため、難破救助され帰国のため同乗していたジョン・M・ブルック船長が指揮を代わった。）	
		3月3日		・桜田門外の変	
		5月		・帰国、木村喜毅の推薦を受け幕府外国方として外交文書の翻訳に従事。同僚に松木弘安。	
1861年	文久元年		26歳	・芝・新銭座に自宅を転居。（鉄砲洲転居までの間を「前期新銭座時代」という。場所は未特定。）	
		冬		・結婚。	
		12月		・遣欧使節（正使竹内下野守保徳外国奉行兼勘定奉行）の一員として品川出航。同行者の中に箕作秋坪、松木弘安ら。	
1863年	文久3年	秋	28歳	・鉄砲洲、中津藩中屋敷内に転居。（「後期鉄砲洲時代」）	
1864年	元治元年	10月	29歳	・外国奉行支配調役次席翻訳御用を命じられる。幕府直参として「殿様」と呼ばれる身分となった。	
1867年	慶応3年	1月	32歳	・幕府軍艦受取委員会（使節主席小野友五郎勘定吟味役）随員として横浜より渡米。	
		7月		・帰国早々小野より告発、謹慎処分となる（3箇月半で解除）。	
		10月14日		・大政奉還。	
		12月		・鉄砲洲一帯が外国人居留地に指定されたことにより立ち退きを命じられる。木村喜毅の勧めで芝新銭座・久留米藩有馬家中屋敷跡400坪を購入。引渡し当日、三田・薩摩藩邸（上屋敷）が焼き討ちに遭い市中騒然とする中、約束を守り強引に支払いを実施。	
		12月		・王政復古の大号令。	
1868年	慶応4年/明治元年	3月14日		・薩摩藩蔵屋敷における勝・西郷会談により江戸城の無血開城が決定。	④
		4月	33歳	・塾を芝・新銭座に移転、慶応義塾と（仮に）名付ける。	②
		4月11日		・江戸無血開城。	
		5月15日		・上野彰義隊の戦いの中、ウェーランド経済書の講義を続ける。（「福澤先生ウェーランド経済書講述記念日」）	
1869年	明治2年	1月	34歳	・版籍奉還。	
1870年	明治3年			・健康のため、湿気の多い新銭座からの転居を決意。	
				・東京府の依頼により西洋警察制度の調査書「取締之法」を提出。	
				・転居と合わせて塾の移転も課題となり、移転先を当たる中、旧島原藩三田中屋敷を気に入る。	
				・岩倉具視・東京府への働き掛けにより、島原藩邸貸し下げ並びにその建物の払い下げを受ける。	
1871年	明治4年	3月	36歳	・塾を三田に移転、併せて転居。	⑤
		7月		・廃藩置県。	

1. 集合場所～慶応義塾発祥の地（中津藩中屋敷蘭学塾）

慶應義塾の起源（慶応義塾公式サイト「慶應義塾豆百科」より）

慶應義塾の起源は、安政5年(1858)の冬、福澤先生が中津藩奥平家の中屋敷内に開いた蘭学塾に由来し、場所は江戸の築地鉄砲洲にあった。現在の東京都中央区明石町の一部で、いま聖路加国際病院のあるあたりがちょうどその位置にあたるといわれ、そこには昭和33年(1958)4月23日、義塾創立百年記念事業の一つとして、「慶應義塾発祥の地記念碑」が建てられた。

開塾のいわれは、新版『福翁自伝』慶應義塾大学出版会刊(以降『自伝』中よりの引用は同書による)に語っている先生自身のことばによると、

「同年江戸の奥平の邸から、ご用があるから来いといって、わたしを呼びに来た。それは江戸の邸に岡見彦曹（ひこぞう）という蘭学好きの人があって、この人はりっぱな身分のある上士族で、どうかして江戸の藩邸に蘭学の塾を開きたいというので、さまざまに周旋して、書生を集めて原書を読む世話をしていた。ところで奥平家がわたしをその教師に使うので、その前、松木弘安（こうあん）、杉亨二（こうじ）というような学者を雇うていたようなわけで、わたしが大阪にいるということがわかったものだから、他国の者を雇うことはない、藩中にある福澤を呼べということになって、ソレでわたしを呼びに来たので」

先生はこれに応じて出府し、上記の場所で蘭学の教授をはじめるようになったのであった。

時に先生は数え年25歳、大阪では緒方洪庵の適塾で塾長をつとめており、出府にあたっては、同窓のなかから同行を希望した岡本周吉(のち岡本節蔵・古川節蔵・古川正雄と改姓名)を伴い、それにもう1人これもたまたま江戸へ下るという同窓の原田磊蔵（らいぞう）と三人連れで、道中とどこおりなく、10月下旬の小春の時節に1日の川止めなどという災難にもあわないで江戸に入ったと上記『自伝』にある。

したがって、開塾の時期はいずれ先生が江戸に着いてすぐのこととみて10月下旬か11月上旬のころと考えられていた(『慶應義塾百年史』上巻以下『百年史』と略記)が、近年安政5年11月22日付の宛名不明の福澤書翰が発見され「10月中旬着府」とあって、開塾は安政5年10月中旬(西暦1858年11月15日～25日)と確認されたのである。

ところでその場所は、現在の中央区明石町の聖路加国際病院のあるあたりで、その前のロータリーに発祥の地記念碑が建っている。これは義塾の創立百年記念事業の一環として造られたもので、昭和33年4月23日義塾の開校記念日にその除幕式が行われた。そしてその場所は、奇しくも明和8年(1771)前野良澤、杉田玄白、中川淳庵らが集まって、オランダの解剖書『ターヘル・アナトミア』を苦労しながら解読した処(時代の差こそあれ同じ中津藩奥平家中屋敷内)でもある。義塾の記念碑とともに日本洋学発祥の地記念碑が昭和34年に日本医史学会・日本医学会・日本医師会の連名により、そこに建てられているのはそのためである。

設計はいずれも芸術院会員谷口吉郎の意匠になるものである。なお、昭和57年2月3日、中央区の道路改修に伴い、場所を若干移したこともあって、従来のこの「蘭学の泉はここに」の記念碑と義塾発祥の地記念碑は合わせて「日本近代文化事始の地」記念碑として、あらためてその改装披露が行われた。

2. 慶応義塾発祥の地～丸武

※1

玉子焼「丸武」

正直、慶応義塾と関係ありません
…(^_^;)ゞ

新銭座までの距離が長いため、ここで一休みして糖分を補給してはいかがかと♪

このお店は、演出家・テリー伊藤の実家として有名です。

今はお兄さんが「アニー伊藤」としてお店を切り盛りしています。

アニー伊藤

テリー伊藤

軍艦操練所（現東京都中央卸売市場（築地市場））

・沿革

黒船来航後に幕府海軍の建設に乗り出した江戸幕府は、最初の本格的な海軍教育機関として、1855年（安政2年）に長崎海軍伝習所を設置した。そして、長崎に続いて、江戸の築地にあった講武所のなかにも海軍教育部門を設けることにした。1857年（安政4年）に、永井尚志以下の長崎海軍伝習所の学生の一部が蒸気船「観光丸」で江戸に移動し、講武所内に軍艦教授所が開かれた。

その後、軍艦教授所は、軍艦操練所と改称した。しばらくは長崎海軍伝習所と並立していたが、江戸から遠い長崎に伝習所を維持する財政負担の大きさや、西洋式軍事技術の導入に消極的な井伊直弼の大老就任により、1859年（安政6年）に長崎海軍伝習所は閉鎖された。そのため、軍艦操練所は以後の幕府海軍教育の中核施設となった。当初の教育対象は幕臣に限定されていたが、万延年間（1860-1861年）には諸藩からの学生も受け入れるようになった。1864年（元治元年）に付近で発生した火災が延焼して、施設の大半を失った。勝海舟はこれを期に神戸海軍操練所を整備しようと画策したが、小栗忠順らが速やかに築地軍艦操練所を再建したため、従来の方針が維持された。

軍艦操練所はさらに軍艦所と改称され、1866年（慶応2年）には教育だけでなく幕府海軍の行政機関としての機能も追加されて、最終的に海軍所となった。1867年（慶応3年）に再度の火災に遭って焼失し、築地から浜御殿へと移転した。新たにイギリスのトレーシー顧問団による教育が行われる予定であったが、大政奉還・王政復古に伴う幕府瓦解により、実現しないままに終わった。

・教育体制

長崎海軍伝習所と比べると、長崎ではオランダ軍事顧問団が教官を務めたのに対し、軍艦操練所では基本的に日本人教官による教育が行われた点が異なっている。軍艦操練所の教授陣は長崎海軍伝習所の卒業生が中心で、小野友五郎や荒井郁之助、肥田浜五郎、佐々倉桐太郎、勝海舟などが挙げられる。ジョン万次郎も教授を務めた時期がある。慶応年間になってイギリス軍事顧問団による教育が計画され、トレーシー中佐以下12人のイギリス海軍軍人が招聘されたが、前述のように幕府瓦解により実現せずに終わった。

練習艦として、蒸気船「観光丸」「咸臨丸」「朝陽丸」や帆船「鵬翔丸」「昌平丸」「君沢形」などが使用された。「咸臨丸」による万延元年遣米使節派遣に際しては、勝海舟ほかの軍艦操練所教授方・教授方手伝らが幹部として乗艦している。

福沢先生と勝海舟

「…安政の改革で才能を見出され、長崎海軍伝習所に入所。万延元年（1860年）には咸臨丸で渡米し、帰国後に軍艦奉行並となり神戸海軍操練所を開設。戊辰戦争時には、幕府軍の軍事総裁となり、徹底抗戦を主張する小栗忠順に対し、早期停戦と江戸城無血開城を主張し実現。明治維新後は、参議、海軍卿、枢密顧問官を歴任し、伯爵に叙せられた。…（Wikipediaより）」とその功績を讃えられる勝海舟。咸臨丸で同行した福沢先生（艦長木村摂津守軍艦奉行の従僕として。勝は指揮官）は、船酔いで操船指揮をアメリカ人船長に交代したり、太平洋の真ん中で「俺は帰る！」とわめいたりした勝のことを批判的に見ていた節が窺えます。

その勝は、そうした先生の目を感じていたのか、12歳年下である先生を軽く見ていたのか、明六社の会合で「おい福沢、まだお前は下宿屋（義塾のこと）をしているか？」と軽口を叩いたり、慶応義塾の経営が資金面で行き詰まり徳川宗家に打診する際の窓口として已む無く頼ってきた先生に「こういう願いは、まずお前さんの全財産を投げ出してから頼みに来るのが筋なんじゃないのかね？」と冷ややかな言葉を投げ返したりしたというエピソードが伝えられています（「国を支えて国を頼らず」北康利著、講談社文庫より）。

3. 丸武～慶応義塾命名の地（久留米藩有馬家中屋敷跡地）

明治4年、三田へ移転後、校地を近藤真琴の攻玉塾（現攻玉社）へ譲渡。
「国を支えて国を頼らず」によると、破格の安値（300円。当時、伊藤博文工部大輔（後の初代首相）の月給が400円）だったそうです。

ウェーランド経済書講述記念日（慶応義塾公式サイト「慶應義塾豆百科」より）

『百年史』付録に「慶應義塾年表」が収録されているが、その昭和31年5月15日の項を見ると「<福澤先生ウェーランド経済書講述記念日>制定。慶應4年のこの日、福澤が彰義隊の戦いをよそにウェーランド経済書の講義をつづけた故事をしのび、毎年この日に記念講演または行事を行うこととす」とある。

ここにある慶應4年という年は、義塾の本拠を築地鉄砲洲から芝新銭座へと移し、時の年号をとり正式に慶應義塾という名をつけた年でもあった。安政5年の創立から数えて丁度10年目の出来事である。この移転によって、校舎も一応整備され、さらに『慶應義塾之記』と題する新たな教育宣言を発するなど、清新の気は塾内外に溢れていた。5月15日の上野彰義隊の戦いを迎えたのはこうした時期であった。

その日は江戸市中は混乱のさなかにあり、「芝居も寄席も見世物も料理茶屋もみな休んでしまって、八百八町は真の闇（やみ）、何が何やらわからないほど」であったと『福翁自伝』は伝えている。もちろん授業をしている学校などあろう筈はなかった。けれどもそのなかで福澤先生はいつもと変わらず土曜日の日課であるウェーランド経済書(Francis Wayland: The elements of political economy,1866)の講義を続けたのであった。そして先生は、世の中にいかなる変動があっても、慶應義塾の存する限り、わが国の学問の命脈は絶えることはないのだと塾生を励まし、それを大きな誇りとされたのであった。

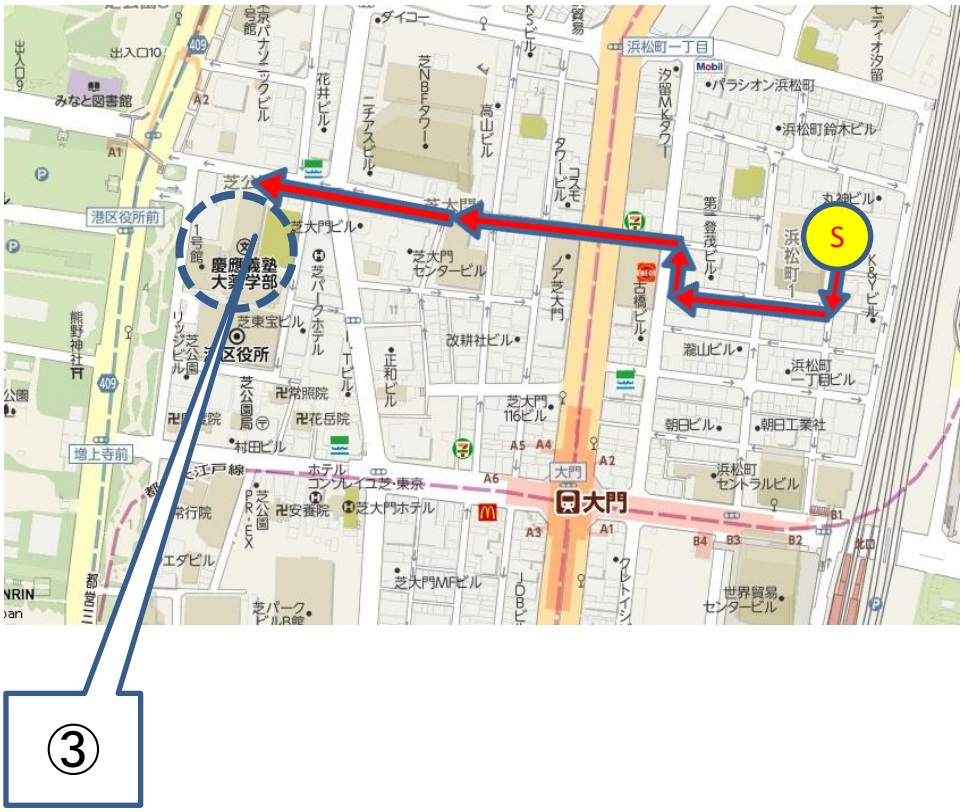
5月15日を特に義塾の記念日と定めたのも、学問教育の尊重を他の何ものよりも優先させた福澤先生の精神を義塾の伝統として長く伝えたいとする趣旨から出たものである。

なお義塾の所蔵する文化財の一つとして、この故事に因み、遠く上野に砲煙の立ちのぼるのを望見しながら、塾生たちを前に、福澤先生がウェーランド経済書の講義を続けられているのを描いた安田靫彦画伯の日本画の半折がある。この絵は安田画伯のきわめて初期の作品で、義塾創立100年を記念して、水上嘉一郎より義塾に寄贈されたものである。またこの日のことは、前記『福翁自伝』をはじめ、明治11年起草の「私塾維持之為資本拝借之願」や明治16年起草の『慶應義塾紀事』に記されている。

上野の戦争（『福翁自伝』より）

新銭座の塾は幸いに兵火のために焼けもせず、教場もどうやらこうやら整理したが、世間はなかなか喧しい。明治元年の五月、上野に大戦争が始まって、その前後は江戸市中の芝居も寄席も見世物も料理茶屋も皆休んでしまって、八百八町は真の闇、何が何やらわからないほどの混乱なれども、私はその戦争の日も塾の課業を罷めない。上野ではどんどん鉄砲を打っている、けれども上野と新銭座とは二里も離れていて、鉄砲玉の飛んで来る気遣いはないというので、丁度あのとき私は英書で経済の講釈をしていました。大分騒々しい様子だが煙でも見えるかというので、生徒らは面白がって梯子に登って屋根の上から見物する。何でも昼から暮過ぎまでの戦争でしたが、此方に関係がなければ怖いこともない。

4. 慶応義塾命名の地～薬学部・芝共立キャンパス



1号館外観

日比谷通り側（敷地西側）です。

慶應義塾大学薬学部（慶応義塾公式サイトより）

2008年4月、慶應義塾は共立薬科大学と合併し、慶應義塾大学薬学部・大学院薬学研究科を開設しました。共立薬科大学の教育理念・目的を尊重し、これまでに培われてきた薬学の分野における専門的な教育・研究・社会貢献と慶應義塾の総合力を融合させることにより、以下の事項を踏まえて新しい薬学教育、薬学研究、そして薬学を通した社会貢献の在り方を世に示して社会を先導していきます。

1. 大学学部、大学大学院、大学病院、一貫教育校等、伝統と実績のある慶應義塾の総合的な教育環境の中に薬学教育を組み入れることにより、国際的かつ全人的な薬学教育を先導する。
2. 慶應義塾大学の既存の他学部・大学院研究科、研究所等のほか、他の諸研究機関との連携を通した研究レベルの向上による、創薬から政策に至るまで、薬学にかかわる広範かつ高度な研究の発展が見込まれ、薬学分野の新しい学問的貢献を先導する。
3. 医薬品・食品・医療・環境等にかかわる諸問題の発見と解決を通して、国際社会、国内の各地域等に対して、安全・安心・健康等にかかわる領域における新たな社会貢献を先導する。

・薬学科（6年制）

薬学科（6年制）では、薬物の適正使用に必要な知識の修得とその進歩を担う薬剤師を育てることを目標としている。薬学科では単に薬学という知識と技能ではなく、完成度の高い薬剤師としての生き方を学ぶ。1年生に対し、ヒューマニズム、プレゼンテーション、IT教育を統合した科目、双方向的な小グループでのチュートリアル教育（SGL）を導入。その後、2、3年次は薬学専門科目を履修して、4年次には、医療薬学を中心とした講義と臨床の現場に出る前の事前実務実習を行う。また、実務実習に出る前に、統合型の医療系集中講義を履修させる。5年次には5ヶ月の病院および薬局での実務実習を行う。また、各講座に入り、卒業研究を行う。

・薬科学科（4年制）

薬科学科（4年制）では、医薬品の創製、分析、管理、さらには食品、化粧品、環境や食品衛生分野を中心とした化学系領域の教育・研究に力を注いでおり、薬学という科学を基盤に健康、医療の進歩に携わる人材を育成することを目的としている。薬科学科は1学年30名と少数であるが、1年生の段階から卒業後の進路に密着した講義、実習が用意され、薬科学科担当講座教員と密接に連絡を取りながら、教育と研究指導を受けることができる。

芝共立キャンパス（慶応義塾公式サイトより）

主に薬学部の2～6年生と大学院生が学ぶキャンパスです（1年生も一部の授業で利用）。構内には教育棟、高層研究棟、学生施設があり、実習室や附属薬局などのほか、トレーニングジムや屋上庭園といった憩いの空間も設けられています。また、東京タワーや増上寺などから程近く、都心にありながら落ち着いた雰囲気が漂います。周囲に鉄道が4路線あり、どの駅からも徒歩10分以内に位置するアクセスのよさも、このキャンパスの大きな魅力です。

芝共立キャンパス1号館屋上から東京タワー方面の展望

5. 薬学部キャンパス～勝海舟・西郷隆盛江戸開城会見の地
（薩摩藩蔵屋敷跡地、現三菱自動車工業㈱本社前）

④

JR田町駅にもこれを描いた壁画が掛かっています。

通い慣れた駅にこんな壁画があったとご存知でしたか？

勝・西郷会談（「Wikipedia」より）

山岡の下交渉を受けて、徳川家側の最高責任者である会計総裁・大久保一翁、陸軍総裁・勝海舟と、大総督府下参謀・西郷隆盛との江戸開城交渉は、田町（東京都港区）の薩摩藩江戸藩邸において、慶応4年（1867年）3月13日・14日の2回行われた。小説やドラマなどの創作では演出上、勝と西郷の2人のみが面会したように描かれることが多いが、実際には徳川家側から大久保や山岡、東征軍側から村田新八・桐野利秋らも同席していたと思われる。

勝と西郷は元治元年（1864年）9月に大坂で面会して以来の旧知の仲であり、西郷にとって勝は、幕府の存在を前提としない新政権の構想を教示された恩人でもあった。西郷は徳川家の総責任者が勝と大久保であることを知った後は、交渉によって妥結できるであろうと情勢を楽観視していた。

この間、11日には東山道先鋒総督参謀の板垣退助（土佐藩）が八王子駅に到着。12日には同じく伊地知正治（薩摩藩）が板橋に入り、13日には東山道先鋒総督岩倉具定も板橋駅に入って、江戸城の包囲網は完成しつつあり、緊迫した状況下における会談となった。しかし西郷は血気にはやる板垣らを抑え、勝らとの交渉が終了するまでは厳に攻撃開始を戒めていた。

・第一回交渉（3月13日）

江戸に到着したばかりの西郷と、西郷の到着を待望していた勝との間で、3月13日に行われた第一回交渉では静寛院宮の処遇問題と、以前山岡に提示された慶喜の降伏条件の確認のみで、突っ込んだ話は行われず、若干の質問・応答のみで終了となった。

・第二回交渉（3月14日）

3月14日の第二回交渉では、勝から先般の降伏条件に対する回答が提示された。

1.徳川慶喜は故郷の水戸で謹慎する。
2.慶喜を助けた諸侯は寛典に処して、命に関わる処分者は出さない。
3.武器・軍艦はまとめておき、寛典の処分が下された後に差し渡す。
4.城内居住の者は、城外に移って謹慎する。
5.江戸城を明け渡しの手続きを終えた後は即刻田安家へ返却を願う。
6.暴発の士民鎮定の件は可能な限り努力する。

これは、以前に山岡に提示された条件に対する全くの骨抜き回答であり、事実上拒否したに等しかったが、西郷は勝・大久保を信頼して、翌日の江戸城進撃を中止し、自らの責任で回答を京都へ持ち帰って検討することを約した。ここに、江戸城無血明け渡しが決定された。この日、京都では天皇が諸臣を従えて自ら天神地祇の前で誓う形式で五箇条の御誓文が発布され、明治国家の基本方針が示されている。

ところで、実際に会談が行われた場所については異説もあり疑義を生じている。勝の『氷川清話』では西郷は田町の薩摩屋敷に談判に来たとの記述があるが、勝の日記『慶応四戊辰日記』には3月13日に「高輪薩州之藩邸」に出張したとの記述があり、翌14日にも「同所」に出張したとの記述があるためである。当時、高輪には薩摩藩下屋敷があり、田町には薩摩藩蔵屋敷があったが、二地点では2kmも離れている。14日の会談は13日と「同所」と書いてあるが、これは同じ薩摩藩邸という意味に過ぎず、13日は高輪の藩邸で14日は田町の藩邸で行われたものとみられている。なお、西郷隆盛の書による「江戸開城 西郷南州 勝海舟 会見之地」の記念碑は田町側に建てられている。

江戸薩摩藩邸焼き討ち事件（「Wikipedia」より（一部））

薩摩藩が江戸市中取締の庄内藩屯所を襲撃した為、幕末の慶応3年12月25日（1868年1月19日）の江戸の三田にある薩摩藩の江戸藩邸（上屋敷、現在のNEC本社周辺一帯）が江戸市中取締の庄内藩らによって襲撃され、砲火により焼失した事件。この事件からの一連の流れが戊辰戦争のきっかけとなった。この事件の影響により翌年の上記江戸開城会見は薩摩藩蔵屋敷（現三菱自動車工業㈱）で行われることとなった。
なお、焼き討ち事件の当日こそ、奇しくも新銭座有馬家中屋敷跡地が福沢先生に引渡されるその日であった（355両、現在の貨幣価値で約200万円）。

6. 勝海舟・西郷隆盛江戸開城会見の地～三田キャンパス（島原藩中屋敷跡地）

⑤

図書館旧館

南校舎

三田移転（慶応義塾公式サイト「慶應義塾豆百科」より）

いま岩波書店刊行の『広辞苑』第4版で「三田」という言葉をひくと「①東京都港区の一地区。芝公園の南西に当たり、慶應義塾大学がある。」という説明とともに、「②慶應義塾大学の俗称」とある。それほどこの言葉は、慶應義塾の代名詞として離れ難いものになっている。塾員の集いは各種各様の三田会であり、塾生の秋の文化祭は三田祭である。

ところで本塾が三田の現在地に移転したのは明治4年のことであった。この発端は明治3年に福澤先生が発疹チフスに罹ったことにある。幸い命には事なきを得たが、慶應4年に鉄砲洲から折角移った新銭座の土地ではあったが、実際に住んでみると「何か臭いように鼻に感じる。また事実湿地でもあるから、どこかに引き移りたい」と考えるようになった。そこで手分けして適当な場所を物色した末、「三田にある島原藩の中屋敷が高燥の地で海浜の眺望（ちょうぼう）もよし、塾には適当だと衆論一決はしたけれども、此方（こっち）の説が決したばかりで、その屋敷は他人の屋敷であるから、これを手に入れるには東京府に頼み、政府から島原藩に上地（じょうち）を命じて、改めて福澤に貸し渡すという趣向」（『福翁自伝』）を思いついたのであった。

たまたま明治新政府の発足に伴いそれまで諸国の大名が持っていた上屋敷、中屋敷、下屋敷の三つの内一つを残してあとは上地させる旨の取決めがなされたばかりであった。しかも好都合なことに東京府から先生に対し、従来の巡邏（じゅんら）制度を改革し、西洋風のポリスの組織に改めるについて、諸外国の制度を調査してほしいとの依頼があったので、口にしないまでも一種の交換条件のような形で、三田の島原藩邸借用の件を依頼するなど、あらゆる手段を尽くしてその実現を図ったのであった。

その結果明治3年11月、東京府から福澤先生に対して、「其方儀近来広く洋書を訳述し許多の生徒を引立稗益不少候に付、出格の訳を以三田2丁目島原藩上げ邸1万1856坪、願の通拝借の儀御許容相成候」云々との令書が正式におりたのである。

この借用までの過程において、岩倉具視が大きな役割を果たしていることも、明治3年10月22日付の阿部泰蔵宛の福澤書翰で明らかであるが、それによると先生が岩倉を訪ね委曲を尽くして願いの趣を述べたところ、「岩様の御声掛り、猛虎一声衆議忽可決」とある。その意味では三田移転の恩人は岩倉具視だといえるかも知れない。

三田の表門（旧島原藩の中屋敷黒門）

おわりに

プチ踏破行、お疲れさまでした！

歩き終わってみて、ご感想はいかがでしょうか。

今回、「縁の地ツアー」を思い立ち準備のために調べ始めて驚いたのは、東京の街中に幕末から明治の史跡がたくさん残っていること、そして、慶応義塾が創立後に転々としてきた場所が思いのほか近くに点在していたことです。

また、「福翁自伝」などを読み返してみて、福沢先生が蘭学塾を開塾後、その翌年にはそれまでの全てを投げ捨てゼロからスタートする覚悟で英学塾に転換したことを始め、時代の荒波に揉まれ、存続の危機に見舞われたことが何度もあったことに改めて気付かされた次第です。

共済部についても、以前とは異なり、全塾協議会を始めとする他の塾生からの厳しい批判の目にさらされていると耳にします。激しい時代の流れ、環境の変化を慨嘆するだけでなく、流れを読み、変化に対応することが私達一人ひとり、そして共済部に求められているような気がしております。

「故きを温ね新しきを知る」、今回のツアーが共済部の新たなる前進のきっかけになれば幸いに存じます。

当日、何かお気付きの点、お困りの点につきましては、
遠慮なく下記共済部室又は緊急連絡先にご一報ください！

慶應義塾大学　福利厚生機関　共済部

〒108-0073　東京都港区三田2-15-45

TEL/FAX　03-3453-2400
E-MAIL　kyosaibu@gmail.com

共済部事務局（当日三田部室に待機）　幹事：中西祐介（現役）

緊急連絡先　090－2907－9533　幹事：寺島正明（平成元年卒）